

会議録

会議の名称	令和7年度 第1回西東京市地域コミュニティあり方検討委員会
開催日時	令和7年7月7日（月曜日） 午後6時30分から午後8時30分まで
開催場所	田無庁舎5階 503会議室
出席者	委員：渡邊委員長、小松真弓副委員長、小松哲郎委員、神崎委員、石井委員、 菊池委員、菅原委員 事務局：小菅部長、河野課長、古川課長補佐、平沼主任、村田主事
議題	1 地域コミュニティの現状と課題について
会議資料	資料1 西東京市地域コミュニティあり方検討委員会委員一覧 資料2 西東京市地域コミュニティ検討委員会設置要綱 資料3 西東京市地域コミュニティあり方検討委員会傍聴要領 資料4 西東京市地域コミュニティあり方検討委員会について
記録方法	☐ 全文記録 ☐ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☒ 会議内容の要点記録
会議内容	
1 開会 ・事務局より開会の挨拶が行われ、出席委員が過半数を超えていることが確認され、会議の成立が宣言された。 ・資料1を用いて、委員より自己紹介。 ・資料2を用いて、互選により委員長を渡邊委員とすることで全会一致。 【以下、渡邊委員長にて議事進行】 ・同要綱に基づき、互選により副委員長を小松真弓委員とすることで全会一致。 ・事務局にて、検討委員会の運営について説明。 ・資料3を用いて、令和7年度 第1回西東京市地域コミュニティあり方検討委員会の傍聴人の定員を5人とすることで全会一致。 ・事務局にて、資料4を用いて西東京市地域コミュニティあり方検討委員会の概要、検討事項、コミュニティ基本方針、全体スケジュールを説明。 2 【議題】地域コミュニティの現状と課題について ○委員長：事務局の説明を受けて、問題提起と、地域コミュニティに関する今後の検討のヒントになるよう、事前に考えてきたキーワードを発表する。 ○委員 ・自宅の庭にある井戸を活用し、地域の子どもたちと一緒に遊んだり、学んだりできる居場所を提供している。 ・子どもが主体的に関われる空間であり、自然との関わりや実体験ができる点が特徴。 ・特別な施設ではなく、個人宅などの小さな単位でも地域の居場所は作れる、という可能性を感じている。 ・地域に点在するこうした居場所の存在が、孤立を防ぎ、つながりを生むと考えている。 ○委員 ・不登校の経験をもつ子どもの親として、家庭・学校・地域それぞれが果たすべき役割を実感し	

ている。

- ・学校という枠に入れない子ども達にも、学びや繋がりを得られる必要性を感じている。
- ・特定の属性（不登校、発達障がい等）でカテゴライズされることにより、居場所から排除される懸念がある。
- ・地域活動に参加しようとしても、保育や時間制約、金銭的補償のなさ等により参加が困難になる懸念がある。
- ・行政による支援とは何か、そもそも“支えられる”側でいたいのか、という根本的な問いも含めて考えていきたい。

○委員長

- ・大学生と地域との関わりの中で、学生自身が成長し、主体的に関わるようになる事例を紹介。
- ・はじめはやらされ感のあった学生も、地域の人々と信頼関係を築くことで必要とされている感覚を得た。
- ・活動を通じて学生同士の対話も深まり、生まれる好循環が生まれた。
- ・重要なのは、「対等な関係」と「学び合い」が成立するコミュニティのあり方である。
- ・一方的な支援ではなく、互いが関わり、共に成長する関係づくりを意識している。

○副委員長

- ・コミュニティ内でのコミュニケーションが取りやすいこと、ある程度の時間を共有すること、意思決定のプロセスの共有・参画をすること、一人一人の多様性の尊重が大切である。
- ・様々な価値観を持った人・団体を混ぜていくために必要なツールなのか、仕組みなのか、人なのかを委員会の中で検討していきたい。
- ・安心・安全で誰かに会えて情報も得られる、多機能な拠点でプラットフォームであるコミュニティを作っていきたい。
- ・コミュニティは地域を楽しくでき、いざというときのつながりにもなり、地域の課題解決にも繋がっていく。

○委員

- ・様々な人たちと会える繋がり、対話できる仲間、活動の継続が大切だと考える。
- ・地域活動をしていると、活動への思いが強い方が多いので、衝突することも多いが、それも楽しかったり苦しかったりする。
- ・地域協力ネットワークは顔を合わせて交流することを中心とし、地域の方々の合流地点のようなものになっていけると良い。

○委員

- ・約170世帯が加入していた自治会が18年程経過し、加入世帯数が約100世帯になった。
- ・自治会のような大きなコミュニティより小さなコミュニティの方が今の人は参加しやすい。
- ・SNSの発達により、情報化していく必要がある。
- ・自治会の会館のような集まれる居場所がないと、コミュニティが広がりづらい。
- ・回覧板がなくなり、ゴミの回収が戸別回収になり、古いコミュニティが崩壊している。
- ・リーダーがいなくても活発に活動できるコミュニティであるべきだが、リーダーがいないと元気がないコミュニティになってしまっている。

○委員

- ・コミュニティとは世代間や様々な団体で交流する必要がある、集まる場所があることは重要である。
- ・情報収集や生活をしていくうえでスマートフォンが必要不可欠となっており、スマートフォンを使えない方が苦労しているため、日常生活のサポートに加えて、ネットをサポートしてくれる人がいると良い。

○委員長

- ・キーワードとしては、居場所、コミュニケーション、情報、パートナーシップ、仲間などがあ

げられた。

- ・居場所とコミュニティの大きさは関連があり、その中の包括的な問題を整理していきたい。

○事務局

- ・本日のご意見を踏まえて、事務局で整理し、次回に向けて資料を用意する。
- ・次回の議題は、委員長及び副委員長と調整する。
- ・次回の開催は、8月25日（月）から28日（木）までの間で調整する。

3 閉会